

## ライラック

私は、暴力や暴言など、人を傷つけることは絶対してはいけませんことだと思います。喧嘩をした時、イライラしているとき、ついカッとなってしまふことはありますが、暴力や暴言では何の解決にもならないと思うからです。私は、小学生のころ、自分の感情をコントロールできなかったので、イライラすると物や人に八つ当たりをしてしまうことがよくありました。しかし、八つ当たりをしても、怒られて余計に機嫌が悪くなったり、友達が離れて言ったりするだけで、いいことは何もありませんでした。

今、私は、暴力や暴言をすることは絶対にありません。自分の感情をコントロールすることが出来るからです。例えば、イライラしている時や腹がたつた時は、自分の部屋に籠って音楽を聴いたり、本を読んだり、気持ちが落ち着くまで自分の好きなことをするようにしています。どうしても落ち着かない時は、寝ます。

でも、ずっと自分の気持ちを飲み込んでいると苦しくなるので、時々、友達や先生に愚痴でも、相談でも、話を聞いてもらうことも大切だと思います。羊ヶ丘養護園では、ときどき安全委員会が行われていますが、それぞれが、イライラしている時やカッとなってしまった時に、自分の気持ちをコントロールすることが出来るようになれば、暴力がなくなるのではないかなと思っています。みんなも、自分の気持ちを落ち着ける方法を探してみると良いと思います。

Sさん

私は羊ヶ丘養護園に勤めて5年目になりますが、数年前は暴力・暴言が日常茶飯事だった子が、安全委員会方式を活用して振り返りや解決をしていく中で、その子の中に約束として「暴力・暴言ではなく、話して伝えていくこと」がしっかり身に付いていく姿を目の当たりにしてきました。その子は最初、腹が立つと暴力は当たり前で「だって相手が悪いから」「相手が自分に腹を立てさせるようなことをしてきたから」と言っていました。その子の立場からするとそう思うこともわかりましたが、相手の気持ちもあることをわかって欲しいと思いながらその子と誰かがトラブルになる度にその子にその思いを伝え続けていきました。ある時、私はその子のトラブルに入り、解決の場を設けている時に、その子から「〇〇ちゃんがそう思ったのは分かったけど、私はこう思ったから腹を立てていた」と相手の気持ちを受け止めて言葉で伝えてあげている姿が見られ、感動したのを今でも覚えています。そんなふうに大きく成長した子たちは、今はどんなに嫌なことがあっても暴力・暴言をしません。

みんなが安心・安全に生活していけるように、私はこれからも暴力・暴言をせずに解決していく方法を子どもたちと一緒に考え、思いを伝え続けていきたいと考えています。職員 古矢景子

## ポプラ

今回で記念集会は10回目を迎え、羊ヶ丘養護園が安全委員会を取り入れてから10年が経過しました。私は導入当初から9年間羊ヶ丘養護園安全委員会の中心で取り組みをさせていただきましたが、その中で様々な変化も、目にしてきました。導入当初は中高生の対応ケースが多かったのですが、安全委員会の考え方が身につけてくると小学生の暴力が増えました。それは田嶋先生の「上が落ち着いてくると下が弾ける」という言葉を眼前で経験しました。そして、今は全体的に身体的暴力が落ち着いてきています。とても良い傾向だと思っています。しかし、暴力対応を行ってみると特定の状況下における特定の児童がピックアップされる、身体的暴力はないが暴言や威圧的態度などがあるという状況が現状であり、課題ではないでしょうか。このことはユニットだけでなく、施設をあげて取り組みを行っていかなくてはならない事です。目の前で起きているトラブルをよしとはせず、「暴力や暴力的態度で解決する事を許さず言葉で解決していく環境づくり」を行っていかなくてはならないと思っています。それが社会のルールであり、約束であることを子どもたちが学んでいけるよう、そして「安心で安全な生活」をみんなまで送っていけるようユニット職員、児童一同取り組み、頑張っていきたいと思っています。

職員 小野 一貴

## かがやき

安全委員会の3つの約束を忘れずに、みんなと仲良く過ごします。小学生になっても頑張ります。

Rくん

## はばたき

僕の配属ユニットは、どの子も元気あふれる子どもで楽しい日々を共に送っています。ただ、楽しい生活の中にも意見が食い違ったり、気に食わなかったりと喧嘩になる事があります。「嫌だったから」という理由で暴力、心無い暴言が多く見られます。喧嘩の際、子ども達と話をすると相手の気持ちを考えず、感情のままに行動(暴力・暴言)したという事がほとんどで、自分の行動で相手がどれだけ傷つくのか考える事、自分が嫌だった気持ちを伝える事が上手くできないのだと知りました。解決の際には、暴力・暴言を自分がされる立場ならどう感じるのかを一緒に考え、互いに自分の気持ちをしっかりと伝える場を設けています。しかし、すぐにできるようにならないのが現状です。「安心で安全な生活」を子ども達で作る事ができるように共に頑張っていきたいと思っています。また、今後も時間をかけて楽しい遊びや日常的な関わりの中で職員側から素直な気持ちを伝えていき、いつか子ども達が自分の気持ちを伝える事ができるように関わっていきます。

職員 松岡空



僕は、年下に蹴ったり叩いたりという暴力をしてしまい、嚴重注意を受けてしまいました。嚴重注意を受けて僕はもう暴力はしないと約束しました。そして今も暴力をしないと意識して生活をしていて、嚴重注意をしてから僕は暴力をしてないのでこれからも暴力はしないように意識して頑張りたいと思います。僕は今中学三年生なので受験に向けて勉強を頑張っています。

最後に安全委員会10周年おめでとうございます。

Yくん



かがやきユニットは、2~6歳の子どもたちが生活しており、安全委員会対応を行なったことはありません。しかし、まだまだ言葉でのやりとりが難しく、手を出して喧嘩になったり、年上児童であっても小さい子にやり返してしまったりすることがあります。嫌なことがあっても暴力ではなく言葉で伝えられるよう、安全委員会の3つの約束をポスターにして掲示する等、小さい子たちでも覚えられるような工夫をしています。最近、年長児を中心に年下児童が悪戯してきても、やり返さずに優しく声を掛けよう意識して関わる姿がみられています。今後は、子どもたちも職員も思いやりの気持ちを大切にしながら、子ども達が安心安全に生活出来るユニットであるよう、頑張っていきたいと思っています。

職員 成田咲月



僕は、小学5年生で、はばたきユニットで生活しています。今年は去年より暴力を振るう回数が少なくなりました。一時保護所で我慢する事、相手を知る事、先生の話聞く事が大切だと知ったからです。これからは優しい人になるという目標の為にみんなと仲良く生活していきたいです。安全委員会の約束を守って頑張っていきます。

Kくん